

47歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には、日本人らしく「情」を大切に生きて、誇りを持って生きていってほしいと感じています。

今日5日、沼津港

近くの港口公園で杉原千畝夫妻碑前祭「命のビザ希望の集い」が開催されました。穏やかな日差しと美しい風景の中で、今年も家族で平和を願う時間を過ごすことができました。世界情勢が緊迫する中、リトアニアとイスラエルの外交官が、この碑前祭のために沼津にいらっ

特に私の心を打つたのはリトアニアのクリスティーナ・シヤルテイ1等書記官のスピーチでした。彼女も杉原氏と同様、入国ビザを発給する職務にあり、また杉原幸子さんと同じく妻として、母として、家族と情を大切にされている方

日本人の情

飯田理一郎

と姿に、人道ある世と平和を願わずにはいられません。日本人は古来より、「情」を大切に生きてきた民族です。その情とは自分が表現する感情と違ったものだけではなく、より包括的な「情緒・真情」といったもので

る側と受け取る側、互いの心に情緒を残す。情緒を共感できるからこそ、人と自然を思いやることのできる。世界に類を見ない言語体系は、日本人らしさそのものだと感じています。世界は矛盾に溢れています。近代化の

定的に生活を営むことができないのは、そのおかげではありません。ただ、それを究めれば究めるほど、残された世界の矛盾が、より大きな自然災害として猛威を振るっているように私は感じます。

情とは、思いやりの心です。杉原夫妻は日本人らしく、情をもって、多くのユダヤ人を日本へ送り出しました。後世の私達は、その情と徳に敬意を払い、行動を伴って継承していかなければいけないと感じています。

年賀しづ 年賀 26日 大会 10時 津久井 上 者。 場合 00 申 だに 専用

(原町中)